翻訳：

イブン・アラビー派と占星術・星辰魔術：

ファナーリー『親密の灯』普遍的神秘の開示章第 14 根源訳注（1）

中西　悠喜
Yuki NAKANISHI

I. 解題

12-13 世紀スペインの神秘家イブン・アラビー（1240 年没）は，存在顕現の世界観を基礎づけ，後のイスラム圏の精神史に絶大な影響を与えた[1]。一なる絶対者から多なる世界が発生し，その全動態を「完全人間」が包蔵する。この根本直観を，彼の支持者たちは「存在一性論」として体系化していく[2]。近年の研究は，そこでアラビア哲学の伝統が果たした役割を強調する。特に直弟子クーナウィー（Ṣadr al-Dīn al-Qūnawī, 1274 年没）が先鞭をつけた，一性論の学知（「神学」）としての体系化は，歴史家たちが好んで扱う主題である[3]。だが，イブン・アラビー派の多様な展開は，単純な哲学化プロセスとしては記述できない。本研究は同派の歴史において占星術や魔術などの秘教的諸学が果たした役割に着目する。

周知のとおり，イブン・アラビー自身は占星術，魔術，さらに数秘術に深く係わっていた[4]。他方でこれらの伝統を彼以後の弟子たちがどう受容したかは，未詳である[5]。現時点の仮説になるが，イブン・アラビーを特徴づける秘教的知への強烈な関心は，一性論の体系化プロセス（必然的に単純化を含む）によって，一度マージナライズされている。事実，直弟子であるクーナウィーも，その弟子筋にあるカーシャーニー（ʿAbd al-Razzāq al-Kāshānī, 1329 年没）やカイサリー（Dāwūd al-Qayṣarī, 1350 年没）も，星辰にかんして多くを語らなかったとみえる[6]。

---

(1) イブン・アラビーについては，Chittick (1989); id. (1998); 井筒（2019）; 相樂（2020）; 東長（2013）108-22 などを参照。

(2) 存在一性論の概要については，Chittick (1982); Chittick / Wilson (trs. [1982]) 6-17; Izutsu (1971) 35-55; 東長（2013）154-60 などを参照。

(3) イブン・アラビー派とアラビア哲学の関係については，Dagli (2016); Demirli (2005); Eichner (2009) 341-42, 344-48; Heer (tr. [1979]); Janssens (2010); Nakanishi (2019); Wisnovsky (2013) 206-07; 竹下（2012）; 中西（2009）; 同（2017）などを参照。

(4) Ebstein (2014); Gardiner (2014) 78-82; Saif (2017) 329-31 などを参照。

(5) ハイダル・アームリー（Ḥaydar al-Āmulī, 1385 年以降没）とイブン・トゥルカ（Ibn Turka, 1432 年没）の事例は，例外的に研究されている（Mansouri [2020]; Melvin-Koushki [2012]）。

(6) たとえば，後述の黄道十二宮を用いたコスモロジーは，クーナウィーの『コーラン開扉章注釈』に

本稿は 14-15 世紀のイブン・アラビー派神学を代表するシャムスッディーン・ファナーリー（Shams al-Dīn al-Fanārī, 1431 年没）を取りあげる[7]。彼は主著『親密の灯』*Miṣbāḥ al-uns* 普遍的神秘の開示章第 14 根源で，一性論の枠組みと占星術・星辰魔術の諸議論を巧みに利用し，宇宙＝人間の発生機序を明らかにしている。近年の研究によれば，彼が活動した当時の東方イスラム圏はヒジュラ暦 1000 年の到来を一世紀半ほど後にひかえ，一種の千年王国思想に沸きたっていた。占星術や星辰魔術などの「奇異」で「隠れた」諸学（al-ʿulūm al-gharība, al-ʿu. al-khafiyya）が隆盛をきわめ，自然探究・聖典解釈・聖者論などと結びつく。ファナーリーもこれらの諸学を探究する「新純潔同胞団」（Neo-Ikhwān al-Ṣafāʾ）のネットワークに属したと言われている[8]。

おそらくファナーリーは 13-14 世紀に周縁化された奇異な諸議論を，14-15 世紀の時代精神にそくし，自派の世界観に再統合することを企図した。企てを実現すべく，彼は派内の最古層をなす二篇のテクストに着目する。一方はイブン・アラビーの『離別者の拘鎖』*ʿUqlat al-mustawfiz*, 他方はジャンディー（Muʾayyad al-Dīn al-Jandī, 1300 年頃没）の『叡智の台座注釈』*Sharḥ Fuṣūṣ al-ḥikam* である。前者は占星術的なコスモロジーと完全人間論を綜合した小品著作，後者はイブン・アラビーの主著『叡智の台座』*Fuṣūṣ al-ḥikam* にたいする最初の注釈書で，やはり占星術の諸概念を広範に参照している。なお，後者の著者ジャンディーは，クーナウィーの弟子にあたる[9]。ファナーリーはこれらの作品にもとづき，自身の宇宙論・人間論を造形していく。以下，その概要を示す。

論述の起点は天の生成過程である。ファナーリーによれば，真実在からは最初の物質である「玉座」が，そしてそこから「足置き」が顕現する[10]。玉座と足置きは，それぞれ第一天球と第二天球に相当するという[11]。玉座の下方には，一切の星をもたない「アトラス天球」が回転する[12]。興味深いことに，ファナーリーはこの天球を 12 の区域に分割し，それぞれを黄道十二

簡略化された形で見られるが（Qūnawī, *Iʿjāz* 87, 16-19），カーシャーニーとカイサリーの著作には，管見のかぎり，確認できていない。ただし後述のとおり，ファナーリーは人間を護符に擬える議論を残しているが，これと似た主旨の発言はカーシャーニーの『叡智の台座注釈』にみられる（al-Kāshānī, *Sharḥ* 97, 4-6）。

(7) ファナーリーの生涯と著作については，Aşkar (1993) 3-89; Aydın / Görgün (2005); Gömbeyaz (2009); Kaya (2020) を参照。彼の思想分析としては，認識論・存在論を主軸にした Nakanishi (2019) 96-151, 208-36, 256-82; 中西（2009）と，宇宙論を扱った Janssens (2010) をあげておく。

(8) 当時の千年王国思想，奇異な学，そして新純潔同胞団の関係については，Binbaş (2016); Melvin-Koushki (2012) などを参照。なお，近年の研究では，この al-ʿulūm al-gharība, al-ʿu. al-khafiyya が "occult sciences"（オカルト諸学）と訳されている。関連して，Saif *et al.* (2021) 所収の諸論考も参照。

(9) 『離別者の拘鎖』については Nyberg (1919) 138-44 [German]を，ジャンディーの注釈については Dagli (2016) 95 を，それぞれ参照。ジャンディーが占星術に強い関心を有していたことは，ビールーニー（Abū Rayḥān al-Bīrūnī, 1050 年以降没）の『マスウード宝典』*al-Qānūn al-Masʿūdī* への参照からもみてとれる（Jandī, *Sharḥ* 324, 10 ff.）。

(10) Fanārī, *Miṣbāḥ* 448, 4/582-83.

(11) Fanārī, *Miṣbāḥ* 448-49, 4/584, 3-4; 449-50, 4/587, 1.

(12) Fanārī, *Miṣbāḥ* 450, 4/588, 1, 4.

宮のひとつに比定する[13]。黄道宮は熱冷乾湿のいずれか 2 つを有し，おなじ二性質を共有する宮の三つ組から単一の元素が顕現する。具体的には，(1）獅子宮，人馬宮，白羊宮（熱・乾）からはエーテルが，（2）双子宮，天秤宮，宝瓶宮（熱・湿）からは空気が，（3）金牛宮，処女宮，磨羯宮（冷・湿）からは水が，そして（4）巨蟹宮，天蠍宮，双魚宮（冷・乾）からは土が生じるという[14]。さらに各々の黄道宮からは，恒星天球，7つの惑星天球，四元素の球が順次顕れ，廻る[15]。以上の諸天体の回転運動は，スーフィーによる恍惚の痙攣に擬えられる[16]。

重要なのは，ファナーリーが真実在の顕現をも一種の運動と理解することだ。運動である以上，熱が生まれ，熱はさらなる運動を生む。系列をさかのぼった先で，彼は原初の一撃を与えた根源的な熱の存在を措定する。それは神のもっとも本源的な名，「生命」（ḥayāt）の熱だという[17]。四元素のひとつを火ではなくエーテルとした背景には，おそらくこの神的な熱の存在がある。諸天はここから生じる運動と熱の連続継起によって廻るわけだ。ところがファナーリーは，そうして生じる時々の星位が逆に真実在の顕現様態にも影響すると論じる[18]。一見して，これは循環論法である。しかしそうではないと，彼は説く。なぜなら一性論の理解では，真実在と世界は相互依存の関係にあるからだ[19]。

最後にファナーリーは以上の議論を人間論に結びつける。彼によれば，人間は真実在から顕現するとき，「天界の霊的諸力と地上の自然的諸力のすべてによって染めあげられる」[20]。これは惑星のエネルギーを込め，地上に奇異を引き起こす「護符」（ṭilasm）の定義に他ならない。人間を星辰魔術の護符として再定義することで，彼は先行する魔術伝統を一性論の心臓部たる完全人間論に綜合したのだ[21]。

近年イランで出版された『親密の灯』への注釈書も，このセクションの内容を詳細に分析してはいない[22]。以下に示す翻訳は議論の冒頭，天の生成過程を論じた箇所の前半部にあたる。ここでファナーリーは主としてイブン・アラビーの『離別者の拘鎖』に依拠し，諸天球の顕現と黄道十二宮の密接な関係を描く。底本はハージェヴィー校訂の第 2 版（KH と略記）とするが，

---

(13) Fanārī, *Miṣbāḥ* 450, 4/588, penult.-451, 4/600.
(14) Fanārī, *Miṣbāḥ* 451, 4/601.
(15) Fanārī, *Miṣbāḥ* 451-42, 4/602, 4-7.
(16) Fanārī, *Miṣbāḥ* 466-67, 4/660.
(17) Fanārī, *Miṣbāḥ* 467, 4/662-64; 471, 4/685; 471-72, 4/687, 4-5.
(18) Fanārī, *Miṣbāḥ* 471-72, 4/686-87 (esp. 4/686, 1-4/687, 3).
(19) Fanārī, *Miṣbāḥ* 472, 4/688, penult.-ult.
(20) Fanārī, *Miṣbāḥ* 473, 4/692.
(21) ファナーリーは「護符」という名詞の使用を避けているが，彼が星辰魔術にも親しんでいたことは，他所で魔術師ブーニー（Aḥmad al-Būnī, 1225 年没）の『示唆の精妙』*Laṭāʾif al-ishārāt* を参照していることからも明らかである（Fanārī, *ʿAyn al-aʿyān* 145, 2-8）。なお，人間の護符化は星辰魔術を「イスラム化」するさいの，典型的なパターンのひとつである（Noble [2021]）。
(22) Nāʾījī (2009/10) IV 2522-96.

彼が利用していないスレイマニイェ図書館収蔵 Ms. Şehid Ali Paşa 1274（1482 年書写，ŞAP と略記）も並行して参照し，適宜テクストを修正した。

II. 訳注

第 14 根源

玉座の形体が個体化したあと，足置きの形体が個体化することについて

我々は言う。かくして真実在から（というのも，彼こそあらゆる顕現の始原だから），それ，つまり諸階梯に遍充する彼の一なる自己顕現をつうじ，先述の神的な諸階梯と被造界的な諸々の顕現の場を媒介として，そして〔それら双方の〕集一体との係りにおいて，顕現した玉座の運動作用[23]が顕れる。というのも，これ〔玉座の運動〕は〔真実在の〕愛の自己顕現運動の形体（ṣūrat ḥarakat al-tajallī al-ḥubbī）だから。〔なお，真実在の自己顕現運動は〕円環的かつ清浄で，〔真実在からの流出を受けとめる〕受容体どもを求めている。〔受容体ども〕も，みずからの可能的諸完成（kamālātu-hā l-mumkina）が〔愛の自己顕現〕によって顕現しつづけるかぎり，自分たちの準備条件（istiʿdādāt）がそれぞれに有する舌（alsina）をつうじて〔真実在からの流出を〕求める。そうして〔玉座の運動の〕形体内に〔まず玉座の運動の〕特殊性が，次いで足置きの形体にたいする〔玉座〕の作用が顕れる。これと同様にして，〔玉座〕（すなわち筆）の霊からは足置きの霊（すなわち普遍魂［al-nafs al-kull］，つまり護られた書版）が顕れる。そしてさらにこれと同様にして，〔玉座〕の運動からは〔足置き〕の円環的運動が顕れる。というのも，〔足置き〕もまた〔玉座〕と同様，単純〔実体〕だから。

『コーラン開扉章注釈』で〔クーナウィーは〕こう言っている。「〔はじめに〕顕現するのは玉座である。これは絶対存在の顕現の場であり，筆の対応物であり，包括的神名の形体であり，『慈悲深き者』（raḥmān）という神名の在処であり，そして『統御者』（mudabbir）〔という神名〕が顕現する完全な場である。その次に〔顕現するのは〕足置きである。これは個体化しているかぎりでの個体化した諸存在が顕現する場であり，護られた書版に対応するもの，『慈愛遍く者』（raḥīm）という神名の在処であり，『詳らかにする御方』（mufaṣṣil）〔という神名〕が顕現する完全な場である」[24]。

また偉大なる師（神が彼を嘉し給わんことを）は『離別者の拘鎖』でこう言っている。「塵

---

(23) ŞAP 109r, 24-25: تاثر حركه العرش الظاهر / KH 448, 4/582, 3: تاثير حركة العرش الظاهرة. 前者の異読にテクストを修正。
(24) Qūnawī, *Iʿjāz* 119, 15-17; 120, 2-4; 120, 10-11.

に先立つ第一の形体（awwal ṣūra qabla l-habāʾ）は，絶対物体（すなわち，縦・横・高さ〔からなる〕）の形体である。〔絶対物体〕の縦は知性に，横は魂に由来する。他方，その高さは『中心のみとの向きあい』（al-khalāʾ ilā l-markaz）をさす。それはまた『普遍物体』（al-jism al-kull）〔ともよばれる〕。これに先立つ第一の形状は球状であり，〔端的にいえば〕天球であるが，それを〔神は〕『玉座』と名づけ，そこに『慈悲深き者』という名をもって腰掛けている。〔ただし「腰掛ける」といっても〕，なにものにも擬えられず，いかなる性質も帯びていない状態の彼に相応しい仕方で〔「腰掛けている」〕のだが。また〔玉座〕は複合界の端緒でもある。なお，彼がそこに腰掛ける場〔玉座〕は密雲に由来するもので，生命の玉座（ʿarsh al-ḥayāt），つまり関係をつうじてしか存在をもたない関係的な玉座（ʿarsh nisbī）である。彼（讃えあれ）はこの玉座に 8 人の担ぎ手を創られた[25]。復活の日（yawm al-qiyāma），彼らこそがそれ〔玉座〕を担ぐのだが，今日にかんしては，彼らのうちの 4 人の天使がそれを担いでいる」[26]。

「第 1〔の天使〕はイスラーフィールの姿（ṣūra）を，第 2〔の天使〕はジブラーイールの姿を，第 3〔の天使〕はミーカーイールの姿を，そして第 4〔の天使〕はリドワーンの姿を，第 5〔の天使〕はマーリクの姿を，第 6〔の天使〕はアーダムの姿を，第 7〔の天使〕はイブラーヒームの姿を，そして第 8〔の天使〕はムハンマド（彼とその一族，および〔彼以外の〕方々にも平安のあらんことを）の姿をとっている。これらは〔いずれも〕彼らの位階（maqāmāt）の形体であって，彼らの存在様態（nashʾāt）の形体ではない」[27]。

「イブン・マサッラ・ジャバリー〔931 年没〕はこう言っている。『イスラーフィールとアーダムは形体（ṣuwar）のために，ジブラーイールとムハンマドは霊（arwāḥ）のために，ミーカーイールとイブラーヒームは糧（arzāq）のために，リドワーンとマーリクは賞罰のためにある。彼（讃えあれ）はこの天球〔玉座〕を『取り囲む天使たち』（al-malāʾika al-ḥāffīn），すなわち付与者たち（wāhibāt）によって満たされた。ここにこそ，イスラーフィール，つまり角笛の口の位階がある[28]。使徒（神が彼とその一族に祝福と平安を与えたまわんことを）が〔夜の旅で〕『筆のきしむ音』（ṣarīf al-aqlām）を聴いたのもここ[29]。彼がラフラフ〔天界の美しい敷物 Q 55:76〕を離れたのもここ[30]。彼のなかで消尽の状態（ḥāl al-fanāʾ）が支配的となり，複合界から

---

(25) ŞAP 109v, 7-8: وجعل سبحانه لهذا العرش حمله ثمانيه / KH 448-49, 4/584, 6: وجعل له سبحانه حملة ثمانية. 前者の異読にテクストを修正。

(26) Ibn al-ʿArabī, *ʿUqla* 56, penult.-58, 1. *Ibid.* 57, 7-ult. は，引用中（KH 448-49, 4/584）では欠落。

(27) Ibn al-ʿArabī, *ʿUqla* 58, 1-4.

(28) ŞAP 109v, 13: وهنا مقام اسرافيل وهو فم القرآن / KH 449, 4/586, 7: وهنا مقام اسرافيل وهم فم القرن. 実線部のみ前者の異読にテクストを修正。

(29) Ṣaḥīḥ al-Bukhārī, ṣalāt 1, anbiyāʾ 5; Ṣaḥīḥ Muslim, īmān 263. Cf. Wensinck (1936-69) III 308.

(30) ŞAP 109v, 14: وهنا ترك الرفرف / KH 449, 4/586, 4: وهنا نزل الوقوف. 前者の異読にテクストを修正。

離存していったのもここ。敬虔者アブー・バクルの声で[31]「止まりたまえ！げに，あなたの主は祝福している」（qif inna rabba-ka yuṣallī）とよびかけられたのも，その後〔声が使徒〕にたいして「彼こそは，あなたがたを暗黒から光明に連れだすために，天使たち共々あなたがたを祝福なされる方である」〔Q 33:43〕と読みあげたのも，〔すべてここ〕である[32]。〔玉座〕こそ，楽園の徒が〔真実在を〕観るために集ったとき，彼らと真実在のあいだにのこる 3 つのヴェール（すなわち〔玉座〕とその直下の二天球）の 1 つである』」[33]。

また彼〔イブン・アラビー〕はこう言っている。「それから彼〔神〕はもう一方の天球を回転させ，これを足置きと名づけた。それは玉座の〔広大な〕空間のなかに，荒野に打ち捨てられた一片の輪っかのごとくある。彼はこの 2 つの天球〔玉座と足置き〕のあいだに塵界（ʿālam al-habāʾ）を創られ，足置きを統御者たち（mudabbirāt）〔諸天使〕[34]で満たされた。ここにはミーカーイールが座する。彼のもとには〔神の〕両足が〔玉座より〕降りきたる。故に御言葉（kalima）は玉座のもとでは一であるが（というのも，〔玉座〕は複合界における第一の〔存在者〕だから），足置きのもとで（というのも，これこそ第二天球だから）我々にたいして[35]，2 つの関係（nisbatān）が顕れる。そしてこの 2 つの〔関係〕が，現実に存在する〔世界と関連づけるなら〕，『両足』と表現されるわけである。いずれにしても，これら 2 つの天球〔玉座と足置き〕から，元素界（ʿālam al-arkān）に不可視の諸形状（al-ashkāl al-gharība）が生じてくる。そしてまたこれら両〔天球〕から，慣行の破棄（kharq al-ʿādāt）が起こり，2 つの世界内に顕れてくる。すなわち〔一方は〕想像界（ʿālam al-khayāl）である。〔ここに顕れる慣行の破棄は〕至高なる彼の御方が次のように仰っているとおり，〔魔術〕である。『彼〔ムーサー〕にはそれら〔縄と杖〕が，彼ら〔エジプトの魔術師たち〕の魔術（siḥr）によって，〔活きて〕走るかのように見えた』〔Q 20:66〕。そして〔もう一方は〕実相界（ʿālam al-ḥaqīqa）である。〔ここに顕れる慣行の破棄は，預言者や聖者の〕奇跡（al-muʿjizāt wa-l-karāmāt）に類する。〔こうした〕特別になされる物事が有する固有の諸特性も，両〔天球〕に由来する」[36]。

また彼〔イブン・アラビー〕は次のように言う。「それから彼の御方（讃えあれ）は足置き

---

(31) ŞAP 109v, 14-15 = Ibn al-ʿArabī, *ʿUqla* 56, 13-14: بصوت ابى بكر الصديق / KH 449, 4/586, 5: بصوت على بن ابى طالب.前者の異読にテクストを修正。

(32) アブー・バクルと昇天伝承の関係については，Akpinar (2016) 93-158 を参照。

(33) Ibn al-ʿArabī, *ʿUqla* 58, 5-penult. *Ibid.* 58, 7-8; 58, 9-11 は，引用中（KH 449, 4/586）では欠落。なお，段落末尾の一文はテクストが揺れている。ŞAP 109v, 15-16: وهو احد لحجب الثلاثه التي ينفي [ينفي؟] بين اهل الجنه وبين اهل الحق اذا جمعوا للرؤيه وهي هذا والفلكان بعده / KH 449, 4/586, 7: وهو احد الحجب الثلاثة تلقي بين اهل الجنة وبين الحق اذا جمعوا للرؤية والفلكان بعده. 破線部は写本の異読に修正した。実線部はどちらの異読でも意味がとおらないため，『離別者の拘鎖』にみられる異読（Ibn al-ʿArabī, *ʿUqla* 56, 16: تبقي）にテクストを修正した。イブン・アラビーにたいするイブン・マサッラの影響については，Ebstein (2014) を参照。

(34) ŞAP 109v, 18: بالمدبّرات / KH 449, 4/587, 2: بالملائكة والمدبرات. 前者の異読にテクストを修正。

(35) ŞAP 109v, 19: وظهر لنا / KH 449, 4/587, 4: وظهر لها. 前者の異読にテクストを修正。

(36) Ibn al-ʿArabī, *ʿUqla* 59, 1-17. *Ibid.* 59, 7-8; 59, 9-10; 59, 12-16 は，引用中（KH 449-50, 4/587）では欠落。

の空間にアトラス天球（al-falak al-aṭlas）を回転させた。足置きにたいする〔アトラス天球〕の関係は，玉座にたいする足置きの関係に等しく，荒野にある一片の輪っかも同然である。両者のあいだにはラフラフ界（ʿālam al-rafraf）があり，これら〔足置き・ラフラフ界・アトラス天球〕が昇天の限界領域（al-maʿārij al-ʿulyā）となる。彼の御方は〔アトラス天球〕に，人間にも〔コトが理解できる〕ような，そういった種々の形象の世界（ʿālam al-muthul al-insāniyya）を創られた。なお〔神にたいする〕人々の賛辞は，〔いいかえれば〕「美を顕し，醜を隠す御方に讃えあれ」（subḥānᵃ man aẓhara l-jamīl wa-satara l-qabīḥ）ということだ。ここでは人々がヴェールの世界（ʿālam al-ḥujub）になる。〔アトラス天球〕にこそ，ジブラーイールの位階があり，ここにこそ「区分する諸天使」（al-malāʾika al-muqassimāt）がある。ここにこそ観測にたずさわる学者たちの学知の終局が存する。そこに天体〔星〕はみられず，〔ゆえに〕この〔天球〕上〔に投影された〕黄道宮は措定物にすぎない。〔アトラス天球〕は 12 の区域（qism）に区分され，その各々の区域に一人の天使が配さされる。〔それぞれの天使〕は当該の区域の頭領となり(37)，〔他の〕区域を区分する諸天使は彼を囲む。彼らは〔それぞれが〕我々の世界においてまとう形体の名でよばれる」(38)。

「第一の天使は秤（mīzān）の形体をとり，その区域の本性は熱にして湿である。この〔天使〕に，〔神〕は生成界の裁定を 6000 年にわたって委任する。〔生成界〕とは時間をともなって回転する第一の天球である。その内部では夜も昼もない日々が生じ，それらがこの天使をつうじて，時間をともなった〔天球〕の運動の端緒となる。神の使徒（神が彼に平安を与えたまわんことを）の時代にも，すでにその〔天球〕は回転していた。〔ムハンマド〕（彼とその一族のうえに平安のあらんことを）は次のように言っている。『すでに時間〔暦の流れ〕は回転し，創造された日の姿のように〔廻りもどっている〕』(39)。〔その日，神は第一の〕天使の手に，諸様態・諸変化・時間を創造する鍵を作られた。そして〔時間〕のなかで，神は天と地を創られた。〔第一の天使〕は運動する〔天使〕である」(40)。

「第二の天使は蠍（ʿaqrab）の形体をとり，その家（bayt）〔区域〕の本性は冷にして湿。彼にたいしては〔神は生成界の裁定を〕5000 年にわたって委任する。この天使の手に〔神〕は火（nār(41)）の創造の鍵を〔作られた〕。これは静止する〔天使〕である」(42)。

「第三〔の天使〕は射手（qaws）の形体をとり，その家の本性は熱にして乾。彼にたいして

---

(37) ŞAP 109v, penult.: هو رئيس دلك القسم / KH 450, 4/588, ult.: وهو رئيس ذلك القسم. 前者の異読にテクストを修正。
(38) Ibn al-ʿArabī, *ʿUqla* 60, 9-61, 9. *Ibid.* 60, 10-12; 60, 15-61, 3 は，引用中（KH 450, 4/588）では欠落。
(39) Ṣaḥīḥ al-Bukhārī, tafsīr (sūra 9) 8, badʾ al-khalq 2, maghāzī 77, aḍāḥī 5, tawḥīd 34; Ṣaḥīḥ Muslim, al-qasāma wa-l-muḥāribīn wa-l-qiṣāṣ wa-l-diyyāt 9. Cf. Wensinck (1936-69) II 158.
(40) Ibn al-ʿArabī, *ʿUqla* 61, 8-62, 3. *Ibid.* 61, 11-12 は，引用中（KH 450, 4/589）では欠落。
(41) ŞAP 110r, 4: النار / KH 450, 4/590, 2: البارد. 前者の異読にテクストを修正。
(42) Ibn al-ʿArabī, *ʿUqla* 62, 3-6. *Ibid.* 62, 5 は，引用中（KH 450, 4/590）では欠落。

は〔神は生成界の裁定を〕4000 年にわたって委任する。彼はこの天使の手に，光と闇の諸物質〔を御するための〕諸々の手綱，ならびに植物を創造する鍵を〔作られた〕」[43]。

「第四〔の天使〕は山羊（jady）の形体をとり，その家の本性は冷にして乾。この〔天使〕には〔神は生成界の裁定を〕3000 年にわたって委任する。これは運動する〔天使〕で，彼の手に〔神〕は夜と昼の鍵を〔作られた〕」[44]。

「第五〔の天使〕は水瓶（dalw）の形体をとり，その家の本性は熱にして湿。彼にたいしては〔神は生成界の裁定を〕2000 年にわたって委任する。この〔天使〕のうえには静止と威厳があり，彼の手に〔神〕は諸々の霊どもの鍵を〔作られた〕」[45]。

「第六〔の天使〕は魚（ḥūt）の形体をとり，その区域は冷にして湿[46]。彼の統治は 1000 年にわたって〔つづき〕，光と闇の諸物体（al-ajsām al-nūrāniyya wa-l-ẓulmāniyya）〔を統御する第三の〕天使[47]とともに彼は協働する。〔この天使〕の手に〔神〕は動物の創造の鍵を〔作られた〕」[48]。

「第七〔の天使〕は牡羊（kabsh）の形体をとり，その区域は熱にして乾。彼の統治を〔神は〕12000 年〔にわたってつづくように〕された。〔この天使〕は運動する〔天使〕であり，その手に〔神〕は付帯性と属性を創造する鍵を〔作られた〕」[49]。

「第八〔の天使〕は牡牛（thawr）の形体をとり，その区域は冷にして乾。彼の統治は 11000 年にわたって〔つづく〕。〔これは〕威厳と警戒がそのうえにある天使〔である〕。〔この天使〕を象って，サーミリーは金の牛をこしらえた〔Q 20:83-99〕。〔第八の天使〕の手に〔神〕は楽園の創造の鍵を〔作られた〕」[50]。

「第九〔の天使〕は双子（taw'amayn）の形体をとり，その区域は熱にして湿。彼の統治は 10000 年にわたって〔つづく〕。彼は諸物体〔を統御する第三の〕天使[51]と協働する。彼の手に〔神は〕鉱物の創造の鍵を〔作られた〕」[52]。

「第十〔の天使〕は蟹（saraṭān）の形体をとり，その区域は冷にして湿。彼の統治は 9000 年にわたって〔つづく〕。彼は運動する天使であり，彼の手に〔神〕は現世（dunyā）の創造の鍵を

---

(43) Ibn al-ʿArabī, *ʿUqla* 62, 6-10. *Ibid.* 62, 8-9 は，引用中（KH 450, 4/591）では欠落。
(44) Ibn al-ʿArabī, *ʿUqla* 62, 10-13.
(45) Ibn al-ʿArabī, *ʿUqla* 62, 13-ult.
(46) ŞAP 110r, 8 = KH 451, 4/594, 1: بارد يابس (وهسمه) وقسمه / Ibn al-ʿArabī, *ʿUqla* 63, 1-2: وجعل قسمه من هذا الفلك باردًا رطبًا. 占星術の伝統的な理解，および後出のファナーリー自身の議論（KH 4/601）と整合させるため，双魚宮の性質を冷かつ湿とする『離別者の拘鎖』中の異読に従った。
(47) ŞAP 110r, 8: ملک / KH 451, 4/594, 2: تلك. 前者の異読にテクストを修正。
(48) Ibn al-ʿArabī, *ʿUqla* 63, 1-4.
(49) Ibn al-ʿArabī, *ʿUqla* 63, 4-6.
(50) Ibn al-ʿArabī, *ʿUqla* 63, 6-11. *Ibid.* 63, 9-10 は，引用中（KH 451, 4/596）では欠落。
(51) ŞAP 110r, 12 = KH 451, 4/597, 2: فلک (فلك) / Ibn al-ʿArabī, *ʿUqla* 63, 13: ملك. 後者の異読にテクストを修正。
(52) Ibn al-ʿArabī, *ʿUqla* 63, 11-14.

〔作られた〕」[53]。

「第十一の〔天使〕は獅子（asad）の形体をとり，その区域は熱にして乾。彼の統治は8000年にわたって〔つづく〕。畏怖〔の感情〕に支配された天使〔であり〕，彼の手に〔神は〕来世の創造の鍵を〔作られた〕」[54]。

「第十二の〔天使〕は乙女（sunbula）の形体をとり，その区域は冷にして乾。彼の統治は7000 年にわたって〔つづく〕。この〔天使〕は人間という諸物体によって確定された特殊性をもつ」[55]。

「そうして獅子・射手・牡羊（ḥamal）からは，エーテル球（kurat al-athīr）が存在するようになる。双子（jawzāʾ）・秤・水瓶をつうじては，空気の球（kurat al-hawāʾ）が存在するようになる。蟹・蠍・魚をつうじては，水の球（kurat al-māʾ）が存在するようになる。牡牛・乙女・山羊をつうじては，土の球（kurat al-arḍ）が存在するようになる。ただし神は万物にたいして〔直接作用をおよぼす〕行為者（讃えあれ）であり，以上のものども〔列挙した諸天使，およびその三つ組から生じる 4 つの球〕は〔神が〕据えつけた原因（asbāb）である[56]。というのも，先述のとおり，彼はそれらによって自身の下僕を試すからである」[57]。

また彼〔イブン・アラビー〕はこう言う。「かくして神（讃えあれ）は第四の天球を生じさせ，これと黄道天球（falak al-burūj）とのあいだにリドワーン界（ʿālam al-riḍwān）を創られた。その〔リドワーン界の〕表面（saṭḥu-hu）は楽園の大地であり，凹面（maqʿaru-hu）は火獄の天井（saqf al-nār）にあたる。楽園の宝物庫の番人（khāzin al-jinān）たるリドワーンはここに住み，この〔第四の〕天球にぞくする諸天使は『後続者』（tāliyyāt）とよばれる。このような〔天球と天使の〕序列は〔神秘的〕啓示（kashf）か清廉な者からの伝承によってしか認識されえない。至高なる神はこの天球を創られたとき，その窪み部分に 1021 の階梯をならべ，それらにもとづき，〔第四の＝恒星〕天球を諸々の区域に区分した。〔これと〕同様にして，彼は黄道天球を12 の区域に区分した。〔この〕それぞれの区域ゆえに 1 つの球が顕現する。こうして 12 の球が顕現する。すなわち，恒星天球とその下部にある 7 つの天球，および四元素〔の球〕である。同じようにして，この第四の天球〔恒星天球〕も先ほど言及した諸区域〔に区分され，その〕それぞれの区域に〔神は 4 つの〕元素界のいずれかの形体を象った天使を作られた。なお，この天球は或る特定の仕方で回転する。それは〔まさに神が〕そのような〔回転〕のなかに楽園界（ʿālam al-jinān）を現わされた，そういった回転であり，大地が植物を生みだすさいに行う運

---

(53) Ibn al-ʿArabī, *ʿUqla* 63, 14-ult.
(54) Ibn al-ʿArabī, *ʿUqla* 63, ult.-64, 3.
(55) Ibn al-ʿArabī, *ʿUqla* 64, 3-6. *Ibid.* 64, 5-6 は，引用中（KH 451, 4/600）では部分的に欠落。
(56) ŞAP 110r, 17: اسباب نصدها / KH 451, 4/601, 3: اسباب تيعنها. 前者の異読にテクストを修正。
(57) Ibn al-ʿArabī, *ʿUqla* 64, 6-15. *Ibid.* 64, 9-14 は，引用中（KH 451, 4/601）では欠落。

動に類するものである。〔これは〕ちょうど至高なる彼の御方が次のように仰ったとおりである。『〔またあなたは大地が枯れて荒れ果てるのを見よう。だがわれが一度それに雨を降らせると，〕（生気が）躍動し膨らんで，凡ての植物が雌雄で美しく萌え出る』〔Q 22:5〕。ところで〔第四の〕天球は，文字天球（falak al-ḥurūf）である。ここから 28 の〔月〕宿に従い，28 の〔アラビア〕文字が生じる」[58]。

「人間やその他の動物がしかるべく〔発音できる〕範囲（ḥadd al-istiqāma）の外側にある文字はといえば，〔人間と動物〕以外の諸区分と〔同じ〕数だけある。〔数の〕大きさは増減しない。これは人間の場合，バーとファーのあいだ，およびジームとシーンのあいだにある文字，さらには鼻腔〔音をあらわす〕文字（ḥurūf al-khayshūm）などである。同様のことは動物どもにもあてはまる」[59]。

「ジャアファル・サーディクの弟子（彼に平安のあらんことを）をつうじて，一部の学者たちは私に次のような伝承を語りつたえている。『彼〔神〕は〔動物ども〕を 70 といくつかの文字に結びつけた。月宿の支配が付与する〔特性〕をのぞいて，文字が〔動物ども〕に特性を付与することはない。ただし〔文字〕はアトラス天球（楽園の天井部に相当）の内で精妙な霊性（rūḥāniyya laṭīfa）を有す。そしてこの〔精妙な霊性〕をつうじて，言葉は楽園の人々のもとにも，とどまることになる。〔ここでの「言葉」とは〕すなわち，思念としての文字（al-ḥurūf al-fikriyya）である』」[60]。

「『他方で言語表現としての〔文字〕（[al-ḥurūf] al-lafẓiyya）だが，これも彼ら〔先述の第四天球の諸天使〕と同一天球上に存する〔楽園の〕人々は有している。だが〔それは我々が用いる〕この慣習的な言葉より甘美で精妙なものである。なぜなら〔楽園〕の〔文字〕は，純粋な霊性（al-rūḥāniyya al-khāliṣa）によって作動するから。〔これは〕我々が楽園でとる形が〔現世のそれ〕より均整のとれた存在様態にあるのと同様である。かくして〔個々の文字が有する〕善き準備条件と〔文字自身にたいする〕霊的な流出（al-fayḍ al-rūḥānī）が，〔文字〕同士の相互関係を結果させる。そしてこの天球から〔生じて〕楽園のなかには，河，風，樹木，乙女，砦，少年があり，さらに食い，飲み，結ばれ，自然学者（ahl aṭ-ṭabīʿa）〔の表現〕に従えば，『或る状態から〔別の〕状態への移行』（al-intiqālāt min ḥāl^{in} ilā ḥāl^{in}）が成立する。といっても〔霊的流出を〕受けとめ，受容するものども自身においては，相互の均整が保たれているため，コトは確定済みなのだが。ゆえに〔楽園の人々〕は未来永劫，変化しない。ただ，その形体・様態・形状，そして食事をする場や衣服，誰と結ばれるか，付帯性が多様に変化するのだ』」[61]。

---

[58] Ibn al-ʿArabī, *ʿUqla* 65, 16-67, 7. *Ibid.* 66, 1-5, 6-10, 15-ult.; 67, 5 は，引用中（KH 451-52, 4/602）では欠落。
[59] Ibn al-ʿArabī, *ʿUqla* 67, 7-11.
[60] Ibn al-ʿArabī, *ʿUqla* 67, 11-16. *Ibid.* 67, 9-10 は，引用中（KH 452, 4/604）では欠落。
[61] Ibn al-ʿArabī, *ʿUqla* 67, 16-68, 8. *Ibid.* 68, 2-3 は，引用中（KH 452-53, 4/605）では欠落。

以上は偉大なる師〔イブン・アラビー〕（神が彼を嘉したまわんことを）が永続する4つの天球の属性にかんして語ったことからの，我々の引用である。

文献目録

一次資料

Fanārī, Shams al-Dīn Muḥammad b. Ḥamza al-: *ʿAyn al-aʿyān*. [İstanbul]: Rıfʿat Beğ maṭbaʿası 1325-26 [1907-08].

—: *Miṣbāḥ al-uns bayna l-maʿqūl wa-l-mashhūd*. In: *Miftāḥ al-ghayb li-Abī l-Maʿālī Ṣadr al-Dīn Muḥammad b. Isḥāq al-Qūnawī wa-sharḥu-hu Miṣbāḥ al-uns li-Muḥammad b. Ḥamza al-Fanārī*. Ed. M. Khwājawī. 2nd ed. Tihrān: Mawlā 1384 [2005/6].

—: *Miṣbāḥ al-uns bayna l-maʿqūl wa-l-mashhūd*. Ms. Süleymaniye küt. Şehid Ali Paşa 1274 (copied in 887 [1482]).

Ibn al-ʿArabī: *ʿUqlat al-mustawfiz*. In: Nyberg (ed. [1919]).

Jandī, Muʾayyad al-Dīn al-: *Sharḥ Fuṣūṣ al-ḥikam*. Ed.: J. Āshtiyānī. Mashhad: Chāpkhāna-ʾi dānishgāh-i Mashhad 1361 [1982/3].

Kāshānī, ʿAbd al-Razzāq al-: *Sharḥ Fuṣūṣ al-ḥikam*. Ed. M. Hādīzāda. Tihrān: Anjuman-i āthār wa-mafākhir-i farhangī 1383 [2004].

Qayṣarī, Dāwūd al-: *Sharḥ Fuṣūṣ al-ḥikam*. Ed. J. al-Āshtiyānī. 3rd ed. Tihrān: Intishārāt-i ʿilmī wa-farhangī 1386 [2007/8].

Qūnawī, Ṣadr al-Dīn al-: *Iʿjāz al-bayān fī tafsīr umm al-Qurʾān*. Ed. J. al-Āshtiyānī. 2nd ed. Qumm: Būstān-i kitāb 1387 [2009].

二次資料（外国語）

Akpinar, M (2016): “Narrative Representations of Abū Bakr (d. 13/634) in the Second/Eighth Century”. PhD diss. Chicago Univ.

Aşkar, M. (1993): *Molla Fenârî ve vahdet-i vücûd anlayışı*. Ankara: Muradiye kültür vakfı.

Aydın, I. H. / T. Görgün (2005): “Molla Fenârî”. In: K. Güran (ed.): *Türkiye diyanet vakfı İslâm ansiklopedisi*. C. 30. İstanbul: Türkiye diyanet vakfı. 245-48.

Binbaş, İ. E. (2016): *Intellectual Networks in Timurid Iran. Sharaf al-Dīn ʿAlī Yazdī and the Islamicate Republic of Letters*. Cambridge: Cambridge UP.

Chittick, W. C. (1982): “The Five Divine Presences. From al-Qūnawī to al-Qayṣarī”. In: *Muslim World* 72, 107-28.

— (1989): *The Sūfī Path of Knowledge. Ibn al-ʿArabī's Metaphysics of Imagination*. Albany: SUNY Press.

— (1998): *The Self-Disclosure of God. Principles of Ibn al-ʿArabī's Cosmology*. Albany: SUNY Press.

Chittick, W. C. / P. L. Wilson (trs. [1982]): *Fakhruddin ʿIraqi. Divine Flashes*. New York: Paulist Press.

Dagli, C. K. (2016): *Ibn al-ʿArabī and Islamic Intellectual Culture. From Mysticism to Philosophy*. London: Routledge.

Demirli, E. (2005): *Sadreddin Konevî'de bilgi ve varlık*. İstanbul: İz.

Ebstein, M. (2014): *Mysticism and Philosophy in al-Andalus. Ibn Masarra, Ibn al-ʿArabī and the Ismaʿīlī Tradition*. Leiden: Brill.

Eichner, H. (2009): "The Post-Avicennian Philosophical Tradition and Islamic Orthodoxy. Philosophical and Theological Summae in Context". Habilitationsschrift. Univ. Halle.

Gardiner, N. (2014): "Esotericism in a Manuscript Culture. Aḥmad al-Būnī and His Readers through the Mamlūk Period". PhD diss. Univ. of Michigan.

Gömbeyaz, K. (2010): "Molla Fenârî'ye nispet edilen eserlerde aidiyet problemi ve Molla Fenârî bibliyografyası". In: Yücedoğru *et al.* (eds. [2010]) 467-524.

Heer, N, L. (tr. [1979]): *The Precious Pearl. Al-Jāmī's* Al-Durrah al-Fākhirah *together with His Glosses and the Commentary on ʿAbd al-Ghafūr al-Lārī*. Albany: SUNY Press.

Izutsu, T. (1971): *The Concept and Reality of Existence*. Tokyo: Keio Institute of Cultural and Linguistic Studies.

Janssens, J. (2010): "Elements of Avicennian Influence in al-Fanārī's Theory of Emanation". In: Yücedoğru *et al.* (eds. [2010]) 315-27.

Kaya, V. (2020): "Mullā Shams al-Dīn al-Fanārī". In: H. Lagerlund (ed.): *Encyclopedia of Medieval Philosophy. Philosophy between 500 and 1500*. 2nd ed. Dordrecht: Springer 1250-53.

Mansouri, M. A. (2020): "*Walāya* between Lettrism and Astrology. The Occult Mysticism of Sayyid Ḥaydar Āmulī (d. ca. 787/1385)". In: *Journal of Sufi Studies* 9, 161-201.

Melvin-Koushki, M. (2012): "The Quest for a Universal Science. The Occult Philosophy of Ṣāʾin al-Dīn Turka Iṣfahānī (1369-1432) and Intellectual Millenarianism in Early Timurid Iran". PhD diss. Yale Univ.

Nāʾījī, M. Ḥ. (1388 [2009/10]): *Tarjuma wa-sharḥ-i Miṣbāḥ al-uns*. 5 vols. Qumm: Āyat-i ishrāq.

Nakanishi, Y. (2019): "Between God and the World. Late Medieval Akbarian Theology within the Post-Avicennian Traditions of Philosophy". PhD diss. Univ. Tübingen.

Noble, M.-S. (2021): *Philosophising the Occult. Avicennan Psychology and* 'the Hidden Secret' *of Fakhr al-Dīn al-Rāzī*. Berlin: de Gruyter.

Nyberg, H. S. (ed. [1919]): *Kleinere Schriften des Ibn al-ʿArabī*. Leiden: Brill.

Özdemir (2011): "Dâvûd Kayserî'de varlık, bilgi ve insan". PhD diss. Marmara Üniv.

Saif, L. (2017): "From *Ġāyat al-ḥakīm* to *Šams al-maʿārif*. Ways of Knowing and Paths of Power in Medieval Islam". In: *Arabica* 64, 297-345.

Saif, L. *et al.* (2021): *Islamicate Occult Sciences in Theory and Practice*. Leiden: Brill.

Wensinck, A. (1936-69): *Concordance et indices de la tradition musulmane*. 7 tomes. Leiden: Brill.

Wisnovsky, R. (2013): "Avicenna's Islamic Reception". In: P. Adamson: *Interpreting Avicenna. Critical Essays*. Cambridge: Cambridge UP 190-213.

Yücedoğru, T. *et al.* (eds. [2010]): *Uluslararası Molla Fenârî sempozyumu (4-6 Aralık 2009 Bursa). Bildiriler*. Bursa: Bursa büyük şehir belediyesi.

二次資料（日本語）
井筒俊彦（仁子寿晴訳［2019］）:『スーフィズムと老荘思想（上)』慶應義塾大学出版会.
相樂悠太（2020）:「イブン・アラビー思想における神の顕現と人間の心」『オリエント』63/1, 21-33.
竹下政孝（2012）:「存在一性論における存在：クーナウィーとトゥーシーの往復書簡を中心として」竹下政孝 / 山内志朗（編）『イスラーム哲学とキリスト教中世 III：神秘哲学』岩波書店 113-39.
東長靖（2013）:『イスラームとスーフィズム：神秘主義・聖者信仰・道徳』名古屋大学出版会.
中西悠喜（2009）:「ファナーリー存在論における〈関係〉：存在の必然性の証明をめぐって」『オリエント』52/2, 76-92.
―（2017）:「イブン・トゥルカ『諸原理序説』における学知と存在：哲学の批判と受容のはざまで」『オリエント』60/1, 53-63.

＊本研究は科学研究費補助金 22H00610 の交付による成果の一部である。

大阪大学外国語学部非常勤講師／
Part-time Lecturer, School of Foreign Studies, Osaka University